

中学生の「税についての作文」

大川市長賞

支え合い

大川市立大川桐薫中学校

三年 池 上 あかり

今年、なかなか収束の見込みのないコロナ禍の中で開催された東京オリンピック・パラリンピックには賛否両論あった。受験生の私は同世代の選手のすばらしい活躍や、連日のメダル獲得の知らせにとっても励まされている。今、選手たちの頑張りを放送している同じテレビ画面の数週間前の映像は、東京オリンピック・パラリンピックを開催するにあたり、有観客にするか、無観客にするか。また、会場でのビールの販売を中止にする等のニュースが流れていた。

中学生の私にも、大会を見に来る観客のチケットの売り上げや、企業がスポンサーになることでオリンピック・パラリンピックに必要な資金を得られることは考えることができる。しかし、大会が無観客になり、企業がスポンサーをやめてしまうようなことになったら、オリンピック・パラリンピック開催の資金はどこから集めるのだろうかという疑問が生まれた。調べてみると、私が考えもしなかったところからの資金だった。

なんと、税金だったのだ。
通常、オリンピック・パラリンピックの資金を集める方法

は、大会を見に来る観客のチケットの売り上げと、スポンサーになる企業からの資金。この二つで足りなかった分を税金で補うことになっている。しかしコロナ禍の中で開催されるオリンピック・パラリンピックでは、税金以外で資金を集めることは難しい。それに、想定外のオリンピック・パラリンピックの延期による支出。また、コロナによって税金がオリンピック・パラリンピックだけに使うことができないというのが現実だ。

だから、税金を納めている人の中には、オリンピック・パラリンピックの為に税金の使われ方に納得できず、開催に賛成できないという人がいるのは、仕方のないことだと思う。しかし、税金を納めている人がいてくれるからこそ東京オリンピック・パラリンピックが開催され、私は選手たちの一生懸命な姿を見て、感動することができた。大会に出場した選手たちも、税金があったからこそ開催が実現し、頑張ることができ、税金を納めている人たちの中には、選手たちの頑張る姿を見ることが元気づけられた人もいるだろう。私には、お互いが支え合っているように感じた。

中学生の私はもつと税に関心を持ち、税金のおかげで生活できていることに感謝をしなければならぬ。納税者の人たちには税金を納めることはあたりまえのことかもしれないが、もつと誇りを持ってほしい。税金はこのコロナ過を乗り越える為に、すごく大きな役割を果たしていることを、この作文を書くにあたって強く感じた。

将来、今、私がテレビで見ている大会会場に行きたい。そこに立ったとき、私は納税者であることを誇りに思うだろう。